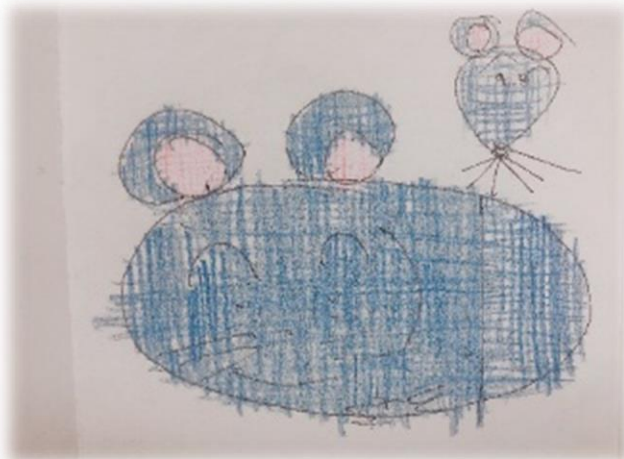



風の谷 びゅう VIEW

社会福祉法人 風の谷
相模原市中央区田名7236-3
発行責任者 政野 光廣
042-760-1033
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>
e-mail:ykoubou@pastel.ocn.ne.jp



**本年も
よろしくお願ひ致します！**



今年の干支は子年 

**HAPPY
NEW YEAR
2020**



【2020年 新春号】

- | | | | |
|---------------|-------|----------------------|-----|
| ◇巻頭文 | P 2 | ◇「それぞれ」～自閉症支援センターより～ | P 3 |
| ◇特集 ～ズーラシア外出～ | P 4・5 | ◇研修報告 | P 6 |
| ◇日々の支援 | P 7 | ◇後援会のページ | P 8 |

新年のご挨拶

理事長 政野 光廣

新年あけましておめでとうございます。

令和2年の新春を迎え、皆さまには新たな気持ちでご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は社会福祉法人風の谷に多大なるご理解とご支援を賜り心よりお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと何よりも痛ましく残念であったのは未曾有の勢力の大型台風や大雨などにより多くの人が災害に遭われたことでした。強風による大規模停電、豪雨による列島の広範囲にわたる河川の氾濫。これらの災害は少なからず地球温暖化の影響によるものと言われております。有識者の分析では、昨年、日本は世界で最も気象災害の大きかった国とされております。しかしながら、我が国の地球温暖化への対応は遅れており、主要国の中でも日本のみが石炭火力の新設にこだわっており各国から、温暖化対策に後ろ向きの国と思われています。世界の潮流は火力発電に石炭を使用すること自体が問題視されています。

さて、私たち社会福祉法人「風の谷」の支援事業を振り返ってみますと、昨年は設立20年へて新たなスタートの年として、職員採用活動の充実、第二やまびこ工房の利用者の増員、グループホームの円滑な運営など支援課題を重点的課題としての取り組みを進めてきました。しかしながら、職員の確保や利用者の増員などについては課題も広汎に渡り、力不足にて不本意な結果となっています。これらのことからもう一度、社会福祉法人 風の谷の在り方を原点に立ち戻り、今、法人に求められている施設の支援について検討を加えることとなりました。法人の理事及び評議員等からメンバーを構成し、社会福祉法人風の谷将来構想検討委員会を設置し今春の報告目指して活動を開始しております。法人の設立当初は「行き場の少ない自閉症者をしっかりと施設で受け止めてくれる」その事だけでも十分な存在価値がありましたが、20年たった現在では他の障害者施設でも自閉症者に対応したプログラムを提供するところもあり、「風の谷」のPRポイントが薄れてきています。また、広範な利用者の中には具体的な就労へのサポートやある程度のレベルの利用者では就労への繋がりを求めるなど、広範な支援を求める利用者も見受けられます。単なる自閉症者専門施設の看板だけでは施設の魅力が打ち出せず、法人の良さも伝わり難い状況となっています。このようなことなどを踏まえて「風の谷」のいま求められるあるべき姿の青写真を描いて共有化し、それに沿った職員組織、新たに必要となる専門知識の習得などと職員体制整備に注力しなければなりません。また、未来を担う職員の育成も急務です。

本年度も各事業の着実な運営に注力するとともに、「風の谷」将来構想検討委員会の報告に基づき体制整備を進めていきたいと思っております。特に念願である人材確保のため、職員採用活動については採用方法も含め検討し、注力していきたいと思っております。昨今の求人難の中で、既存事業の充実と更なる事業展開を図るには新たな職員の確保が不可欠です。

毎年同じ言葉の繰り返しとなりますが、私が今までの関わりの中で大切にすべきと思うことは利用者一人ひとりに対して、共に生きる人としての尊厳を大切にすること、そして各人の個性に合わせた支援サポートを追及することにつきます。

風の谷の運営は「利用者の一人々に寄り添ったきめ細かな支援」の充実を推進することにあります。各利用者の支援を確認し合い、利用者満足度の高い法人、施設運営を目指していきます。

最後になりましたが、皆様方のご健康とご多幸を心からお祈りいたすとともに、一層のご支援とご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

それぞれ ～相模原自閉症支援センターより～

新年を迎え、新たな抱負を持たれた方もおられることと思います。私自身は、東京オリンピック開催の年に相応しい抱負として、フルマラソンに初挑戦しようかと思っています。この抱負は、昨年、初めてマラソン大会に参加し、芽生えてきたものです。1年前、どんな抱負を持っていたかと言えば、無かったように思います。抱負は新年によく使う言葉ですが、どんなイメージを持たれているでしょうか？

津久井やまゆり園の利用者に係る意思決定支援チームに所属して、2年が経とうとしています。研修に参加したり、チーム会議を重ね、意思決定支援をどのように行うべきか検討し、かつての情報を収集したり、現在の様子を共有したり、御家族の意向や幼少時のことを伺ったり、人手不足の中、なんとかやりくりして体験の場を設定するなどしてきました。会議の中では、様々な議論がなされます。そのような中「自分の意思もわからないのに、利用者の意思はわからない」という意見が出されました。貴重な意見だと思います。意思を押し付ける危険性もあるからです。

抱負は意思でもあります。「自分の意思もわからないのに・・・」の意思は、抱負に近いものかもしれません。抱負はいくつかの要因があって持てるものです。私自身が今年の抱負に至ったことを分析すると以下のような点が挙げられると思います。

昨年、10キロ弱の登山マラソンやハーフマラソンを走り、“計画や準備”の仕方が分かってきたことが一つ、自分の体が42.195キロ走ることに耐えられるか、翌日の仕事に支障がないか、達成感を感じられそうかなどの“自己理解”が一つ、フルマラソンを完走した人に対する皆さんのイメージ、つまり賞賛に値するものかどうかという“文化的理解”が一つ、オリンピックイヤーであることや新年という場面が後押しする“決断”が一つ、さらに抱負は、今日、明日に達成されるものではない、“未来性”が挙げられると思います。

これらは、一人で進めてきたわけではありません。マラソン大会に誘ってくれる友人がいて、まず、出場するかしないかの選択を求められます。さらに完走できるように一緒に試走してくれたり、マラソン大会後にも楽しみがあったり、モチベーションを高めてくれました。最近では、フルマラソンは出場しないの？と言われてたり、フルマラソンを走った人から感想を聞いたりしました。これは、私自身が受けた意思決定支援でもあるのです。

意思決定支援に関わっていなければ、抱負についてこのような考えをめぐらすことはなかったでしょう。1年後には、津久井やまゆり園利用者が、新たな暮らしのあり方についての抱負を持てるように支援していくのが理想です。ただまだまだ課題は山積みです。意思を引き出す体験を十分に提供できていない点や意思確認の第一歩である選択の場面も種類や回数が少ない点、そして経験の蓄積が本人の自己理解に繋がるまでの時間は、急ぐことはできない点です。とかく周囲の支援者がわかった気になってしまうと意思の押し付けになりそうです。大事なのはご本人の自己理解に基づいた意思決定です。意思決定支援で学ばせてもらったことを風の谷でも生かせるように取り組んで参りたいと思います。本年もよろしくお願ひします。(薬師丸)



よこはま動物園 ズーラシア

@途中報告

今年度、第二やまびこ工房ではよこはま動物園ズーラシアへの日帰り旅行を実施しています。「楽しむ」だけではなく、「他者と同じ気持ちを共有する」「初めて外出活動を実施した方がどのような反応を示すのか？」という3つの目的を持って企画しました。個別支援という強みを活かしつつ、他者意識を育む一環として小グループに分かれ、同じ場所に行きその場所の雰囲気や景色、匂いなどを感じてもらいました。意外にもみなさん動物への関心もあり、柵に乗り出してまで見る方もいました。ポニーへの餌やりも体験してもらい、普段味わえない体験もできました(怖がる方もいれば、物怖じせず出来る方も…笑)。全グループが終了し、同じ場所でとったそれぞれの集合写真をアルバムにして見返した時に、各グループ行った日は別ですが、この時の思い出を共有する事ができたらうれしいです。またこのような活動を今後も企画していき、今回参加されなかった方も含め利用者の方々の“新たな芽生え”に繋げていけたらいいと思います。

(八木・伊波・横溝)



馬の餌やり



散歩中



食事持ちとデザート



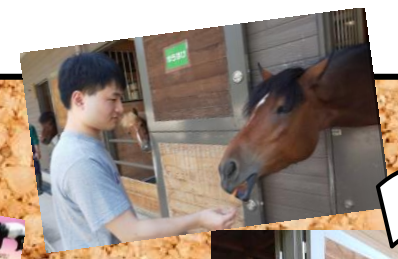
記念撮影



散歩中



ひと休み中



馬の餌やり



研修報告

11月7日(木)～11月8日(金)の二日間にわたり、埼玉県川越市にて全日本自閉症支援者協会研究大会が開催され、参加させて頂きました。本大会のテーマは「令和元年！節目の年を迎えて、原点の再確認と、生涯を支える切れ目のない支援の構築を！」というものでした。

人の生育過程において、学童期から高齢期にかけては本人を取り巻く周囲の状況や、関わりを持つ人たちが大きく変わっていきます。そういった中で、子どもから思春期を経て大人になり、親から支援者にバトンタッチされる場所までの切れ目の無い支援の重要性が問われていました。発達障害の早期発見・早期支援も重要とされており、早い段階から丁寧なアセスメントを受け、適切な支援を受けるところから「切れ目の無い支援」が始まります。

教育場面では「繋げる、繋がる」といった言葉がキーワードとして述べられていました。学童期には特別支援学校や、小学校・中学校に通っていくこととなりますが、それだけでなく、その頃から地域や施設、医療等との繋がりがより大きくなっていきます。特別支援教育の現状として、それぞれの機関と個々の療育課題を繋げていくために、一人ひとりの教育的ニーズを把握し適切な指導及び、必要な支援を行う必要があるとされています。

成人期となり施設や職場に進んでいく中で、早い段階から適切な支援を受け、社会とより深く繋がり、充実した活動を行っていくためにも各機関の連携が重要となります。

一方で、まだ新しい福祉の歴史の中で問題とされているのが「50・80問題」です。50・80問題とは80代の親が50代の子どもの生活を支えるという問題です。当時の子どもが40代から50代、その親が70代から80代となり、長期高齢化し、こうした親子が社会的に孤立し、生活が立ち行かなくなる状態を言います。

平成の時代になり発達障害に関する制度が徐々に整備され、世間的にも自閉症の理解は進んでいますが、それ以前(法律が出来る前)に成人期を迎えた人の中には、本人も発達障害の存在に気が付けず苦しんでいるケースがあります。こういった方々を福祉サービスに繋げていくことも課題とされています。

今、私自身が関わっている利用者の方々は、生育過程において一番長い「成人期」の方々です。「切れ目の無い支援」とは引き継ぎの場面にものみあるものではなく、「継続」していくことに意味があることを学びました。意思決定支援、合理的配慮、権利擁護等、利用者の方々が社会で尊厳を持って暮らしていくために、私たちがしていくべき課題は多くあります。今回の研修で学んだことを日々の支援に生かし、充実した時間を提供できるよう努めていきたいと思えます。

(大塚)

日々の支援から ~Aさんの風の谷活用例~

風の谷では、様々なサービスを組み合わせることで各利用者さんの地域生活を支える活動を行っています。その基本になっているのはご本人の意向の聞き取りです。

2019年 12月の予定表 やまびこ工房

月	火	水	木	金	土	日
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

図1

Aさんは年間のスケジュールがご本人の中で決まっています、それを確認しながらサービスの実施を行っている方です。現在、日中はやまびこ工房(生活介護)を利用、夜はグループホームナウシカを利用されています。また、相模原自閉症支援センターのガイドヘルプを利用して外出をされています。

その日程の確認が毎月ご本人からあり、日程表(図1)をお渡しして、確認をしています。

図2はやまびこ工房の昼食の献立表です。ご本人にとって食事の内容はとても楽しい時間であると同時に何が出るのか心配な場面でもあります。日程表同様に確認をして食べられるものとそうでないものをチェックしていただいています。

2019年 12月 献立表 やまびこ工房

12月1日(日)	12月2日(月)	12月3日(火)	12月4日(水)	12月5日(木)	12月6日(金)	12月7日(土)	12月8日(日)
鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子

図2

図3はグループホームナウシカでの夕、朝食の確認表です。こちらは1週間ごとの確認となっています。Aさんは鮭が好物で、週2回、通常のメニューを吟味して鮭の日を決められています。こちらはPC画面を一緒に見ながらスタッフが打ち込むようにしています。

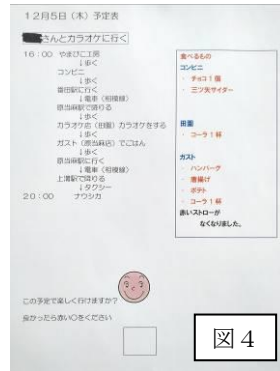
夕、朝食の確認表

献立表	5日	6日	7日	8日	9日	10日
献立表	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子
夕 献立表	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子
朝食 献立表	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子	鶏肉のステーキ ポテトサラダ みそ汁 ごはん お菓子

図3

図4、5はヘルパーとの 外出の内容について書面で確認をしていただいているものです。内容がOKなら「赤いマル」、希望と違いがあれば「青いバツ」を書いていただくようになっています。これは元々ご家族とのやり取りで慣れ親しんでいた表現です。

平日はカラオケと温泉に決められており、高い所が好きなAさんは、休日の行き先に展望台がある場所を希望されることが多いです。



ここまでご紹介させていただいた例は一部ですが、ご本人の意向をどのように聞きとるかということに力を入れています。ご本人とのやり取りを繰り返す中で様々な確認方法が出来上がってきています。時には、意向が正しく汲み取れず、ヘルパーが現地へ行って初めて意図が分かったということも。先に「高い所」との例を挙げていますが、これが好きに違いない、と考えていたことが数年たって違っていたことが判明するといったこともあります。

現在も試行錯誤を継続中でAさんの本音をどうしたら引き出せるか、Aさんの表現をどう解釈するのが正しいのか、ということを探求する毎日です。これからもAさんの協力をいただきながら、よりご本人の意向に沿った内容やスケジュールが設定できるよう、その声に耳を澄ませながら一緒に充実した地域生活をつくっていきたいと考えています。(野田)



後援会のページ



令和二年が明けました。皆様おめでとうございます。昨年は社会福祉法人「風の谷」をご後援いただき有難うございました。本年もまた一層のご支援をお願い申し上げます。また年頭に当たり皆様にとって本年が明るい一年であります様お祈り申し上げます。

元号が改まった昨年は明るい出来事と暗い出来事とが折り重なる様に訪れて来ました。明るいニュースでは新天皇の即位とラグビーW杯での日本チームの活躍、それにノーベル賞受賞などが印象深く心に残っています。一方暗いニュースでは何と言っても甚大な被害を残した台風15号19号でしょう。相模原市も緑区の間部で何れも大きな土砂崩れが起きました。犠牲者も出ましたし、未だに復旧できていない道路もあります。また、あおり運転や高齢者の暴走運転それに幼児虐待など残念な事件も度重なりました。私も運転には細心の注意が必要だと気を引き締めています。

ラグビーの話題に戻りますが、異なる民族のプレイヤーが団結して活躍する姿にとっても感動しました。まさしくONE TEAMです。単一民族のチームよりもずっとずっと素敵だと思いました。個性の違いをアドバンテージとして生かし、一つの目標に向かって懸命にプレイする姿は私達に何か大切なものを教えてくれた気がします。
(後援会長 堀田脩司)

令和元年9月1日～令和元年11月30日現在（五十音順敬称略）

【更新個人】

(相模原市) 内田まゆみ 荻原常寿 川勝登美子 川勝英範 川島和章 菊池みどり 佐藤しづ子
野口和代 萩原春夫 萩原莉恵子 柳場秀雄 山口彰一 山崎テル代 (海老名市) 有路富夫
(厚木市) 藤野喜友 (国分寺市) 岩崎秀二 (町田市) 上城敏明 (横浜市) 川勝友紀子
(世田谷区) 済田安司 (北九州市) 上城和子 (盛岡市) 源新和子 (福井県三方上中郡) 塚本寿子

【更新団体】

相模原やまびこ会 創デザイン工房

【ご寄付・ご協力】

木下謙三 新宿自治会 新宿小学校 ドウ・シルフィード
田名地区社協ボランティアセンター (有) 伸和トラスト ワーカーズキュービック相模原
その他たくさんの方にご協力いただきました。ありがとうございました。

【お詫びと訂正】

令和元年度広報の秋号にて、小松克明様のお名前を誤って小松英明と記載しておりました。
小松様、関係者の皆様、大変失礼いたしました。

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円／年間 団体会員 一口：10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

<お問い合わせ先>

『風の谷後援会』事務局

〒252-0244 相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内

TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345

他の金融機関からの振込先 ゆうちょ銀行 9900 店番 029 当座 0015345